

学校だより

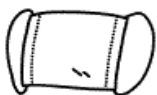
子どもの未来をみんなで創る

令和2年 9月号

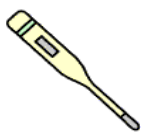
神奈川県立相模原中央支援学校



コロナ禍の夏休みが終わり、2学期が始まりました。今年の夏は猛暑であり、厳しい残暑が続く中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大だけでなく熱中症にも気を付けながら、学校生活を日々送っています。



学校再開の6月からこれまで、分散登校や短縮授業等を実施してまいりましたが、8月31日からは下校時間を元の時間に戻し、教育活動を充実させるため、授業実践や授業研究を重ねているところです。



感染症対策につきましては、引き続き「マスク着用」「手洗い・うがい」「人との距離の確保」「検温」「健康観察」を徹底し、校内の消毒作業や換気等についても注意深く行ってまいります。

今後、「新しい生活様式における学校生活」について、本校に関わる全ての方々とともに、より良い形を考え構築していきたいと思えます。幼児・児童・生徒のみなさんや保護者のみなさまには、これまで同様、3密回避にご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

※本校ではサーマルカメラを導入し、昇降口での試行を始めました。検温場所の密を避けながら入校できるようになることをめざしています。【副校長：篠原朋子】



今年度の研究テーマと新しい授業風景より

今年度の研究テーマは『自立と社会参加をめざす授業づくり～積み重ね、広がる指導をめざして』です。次の三つの柱を中心に進めていきます。一つ目の「学部研究」では、新学習指導要領に基づき各教科の学習内容の見直しやケース会で効果的なアプローチの検証を行います。二つ目の「授業改善」では、一人一回の授業公開・研究授業を通して授業改善に取り組んでいきます。三つ目の「合理的配慮」では、統一シンボルやサイン、手順書等が示された『相模原中央支援スタンダード』の活用と充実を目指します。

子どもたちも職員も新しい生活様式を取り入れた学校生活に少しずつ慣れ始めているところです。授業にリモートの形態を取り入れたり、体育の授業ではマスクの扱い方も組み込んでソーシャルディスタンスを保てる活動に変更したり、工夫をして感染症対策を意識しつつ新しい発想で授業作りに取り組んでいます。

※写真は中学部の体力づくりの授業です。体育館に貼られた2m間隔の目印を確認して友だちとの距離を保ち、その場でできるストレッチを行っている様子です。

研究研修グループ 友永

